

2010-11-09

オランダのアート&デザイン新・言語

テーマ: [観シュランガイド2010](#)

昨日紹介した“トランスフォーメーション”ともう一つ、
東京都現代美術館で、現在開催されている美術展があります。

それは、

[“オランダのアート&デザイン新・言語”](#)

前衛的なアプローチにより、90年代から世界中の注目を集めたオランダ・デザイン。
オランダ・デザインと言えば、昨年に佐倉市立美術館でも、
[“オランダデザイン展 挑発する色とかたち”](#)という美術展がありました。
今回の東京都現代美術館のは、
最新オランダ・デザインに加え、最新オランダ・アートにもスポットを当てた美術展。

出展作家は、絞りに絞って、たったの4人。
それだけに、一人一人の作家が掘り下げられていて、より深く楽しめた気がします。

まず最初に紹介されていたのは、
テッド・ノーテンというコンテンポラリージュエリーアーティスト。
ジュエリーと聞いて、普通の宝石を想像してしまいましたが、甘かったです。
普通のジュエリー作家が、東京都現代美術館で展示されるわけがありません。

例えば、彼がバッグをデザインするようになります。

これまた、中の人は大忙しです(笑)

続いての登場は、マルティン・エンゲルブレクトというアーティスト/デザイナー。
彼は5つのプロジェクトを、展開しています。
中でも一番面白かったのは、[《迷惑電話撃退マニュアル》](#)
迷惑電話が掛かってきた時のhow toを伝授してくれるという素晴らしいプロジェクト。
こんなにも生活に役立つ展示が、今まであったでしょうか(笑)
しかも、ちゃんとマニュアルは貰えます↓



これで、明日から迷惑電話がかかってきても、へっちゃらです。

他にも、ご近所さんとの絆を深めるグッズをたくさん販売している《ご近所ショップ》や、二者択一の扉を選んで進んでいくと、自分がどんな人間かわかる（…かも）な《3Dフォーム》など。面白プロジェクトが、目白押しです。

…と、ここまでの3人がパンチありすぎて。
唯一の日本人作家タケトモコさんのコーナーは、、、
あっさりとお観終わってしまった印象です。



2ツ星ですが、1点だけ気になったことが。
展示の初めに、「参加型の作品で使いますので」、
ハイチュウみたいな形をした謎のレンガのブロックを渡されます。
汚れないようにと、紙に包んで。
その謎のブロックの出番が、なかなか来ないのです。

「これ、いつまで持っていればいいのか?！」

美術展の半分は、
そんな疑問を持ち続けながら観賞させられました。
出来れば、普通に観賞したかったです（笑）

ランキングに、ご協力をお願いします



美術ブログ